

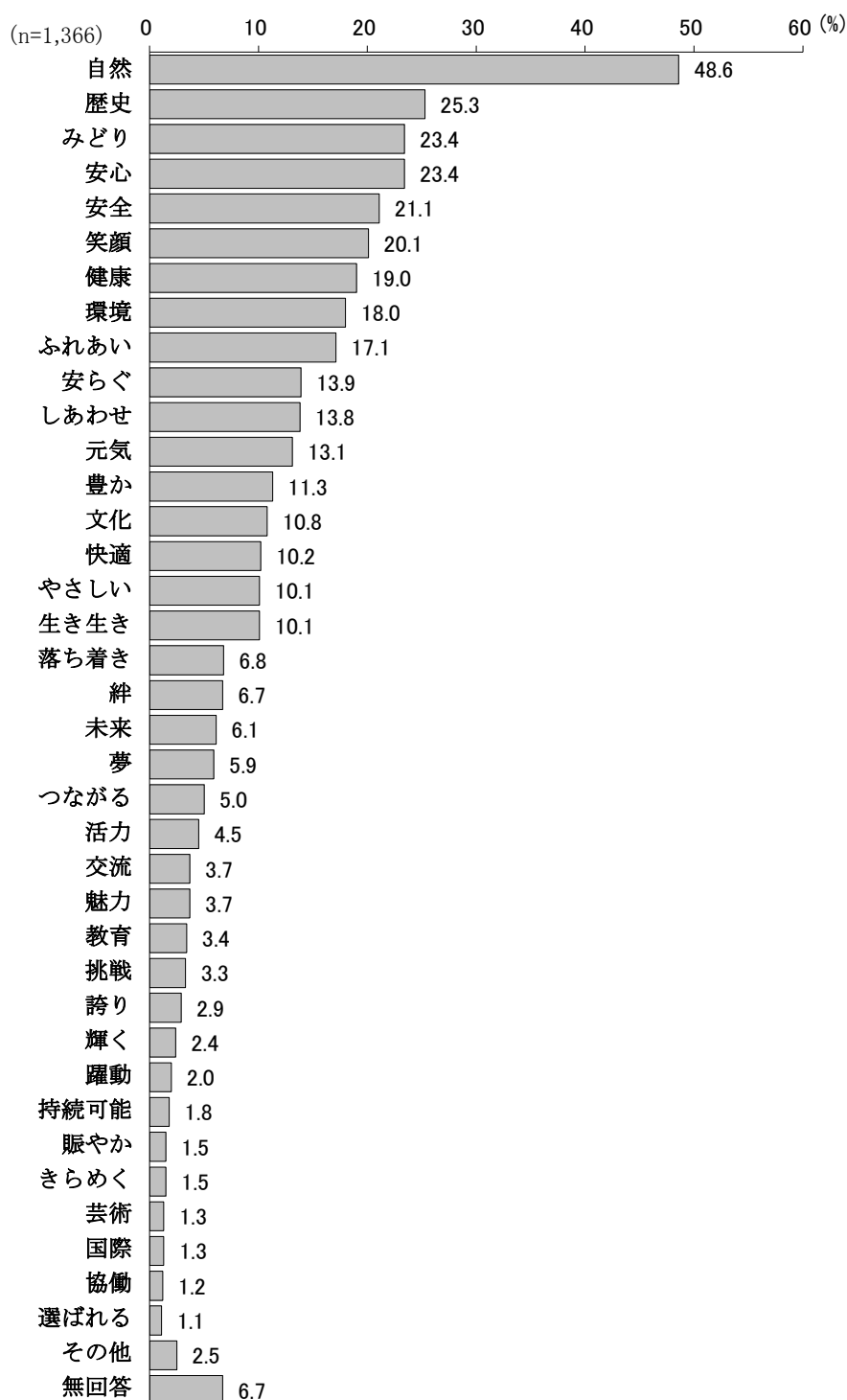
第4章 調査結果〔その他〕

1. 今後のまちづくりについて

(1) 未来の伊勢原市のキャッチフレーズ

未来の伊勢原のまちを表す言葉（キャッチフレーズ）として、どのような言葉がふさわしいと思いますか。（〇は5つまで）

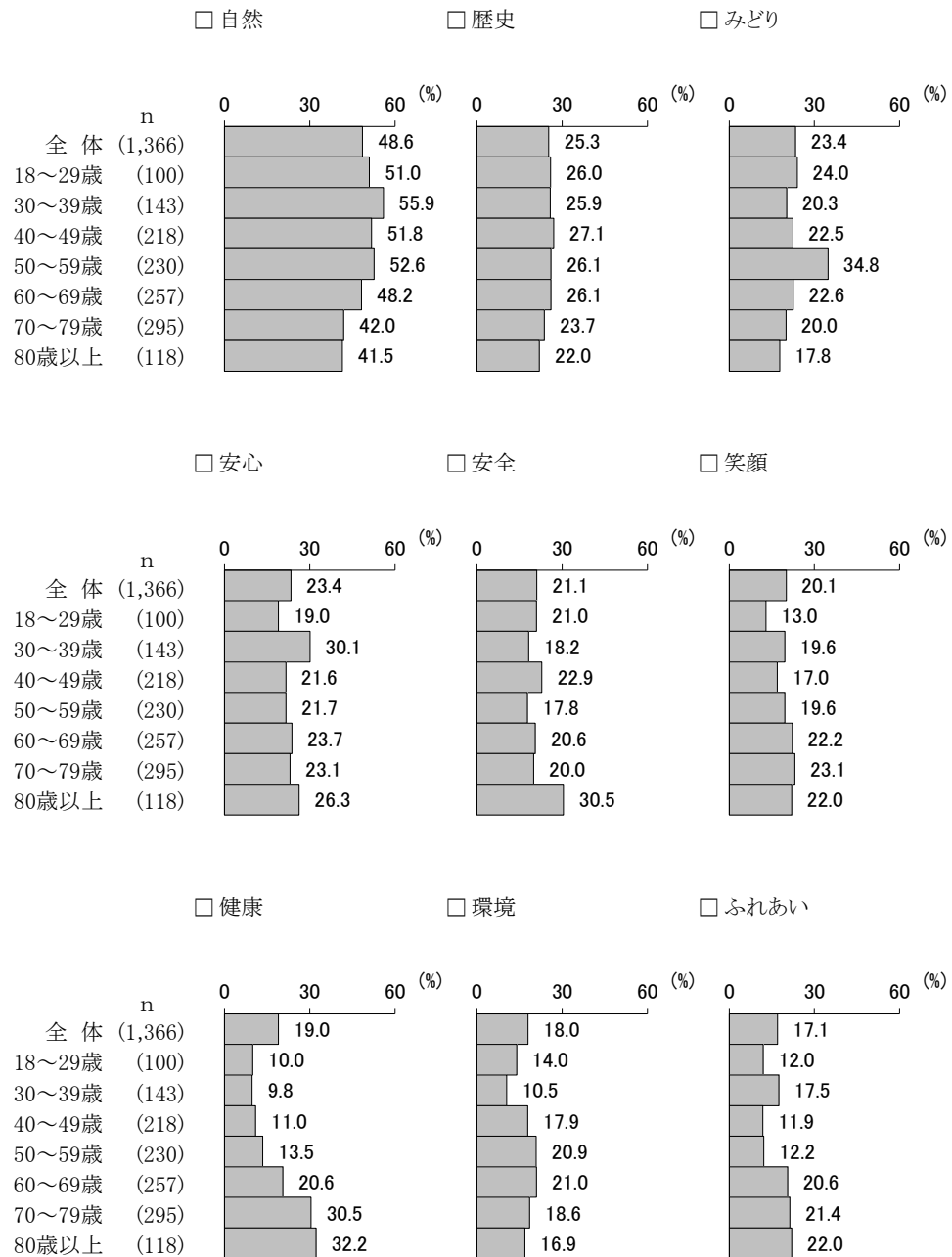
未来の伊勢原のまちを表す言葉（キャッチフレーズ）でふさわしいと思う言葉は、「自然」が48.6%と特に多く、以下、「歴史」（25.3%）、「みどり」、「安心」（23.4%）、「安全」（21.1%）、「笑顔」（20.1%）が2割台で続いている。



第4章 調査結果〔その他〕

年齢別にみると、全ての年齢で「自然」が4割から5割台と最も多く、「歴史」も2割台となっている。この他、「みどり」は50～59歳（34.8%）、「安心」は30～39歳（30.1%）、「安全」は80歳以上（30.5%）で3割台と他の年齢層より多く、「健康」は年齢層が上がるにつれて多くなり、70歳以上の年齢で3割台となっている。

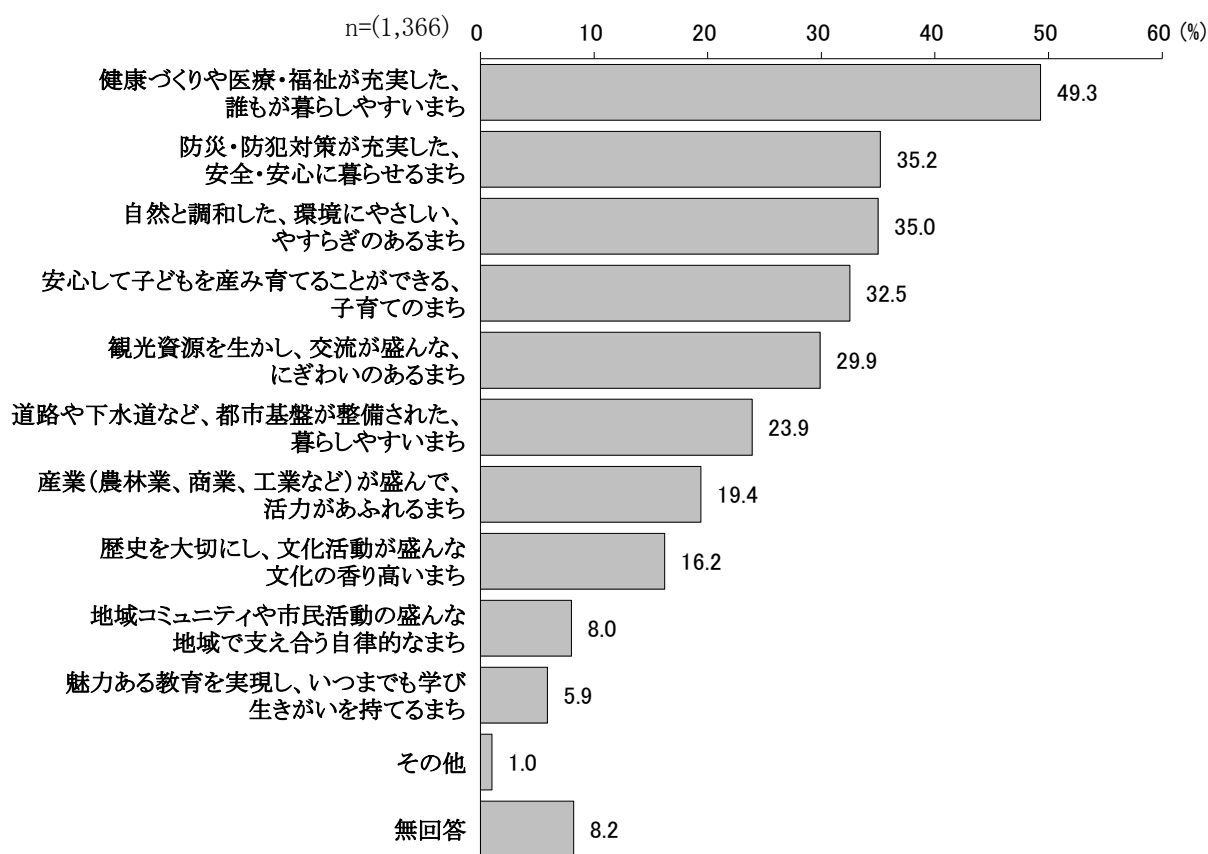
年齢別 未来の伊勢原市のキャッチフレーズ（上位9項目）



(2) 市が今後目指すべきまち

伊勢原市は今後どのようなまちを目指したらよいと思いますか。(〇は3つまで)

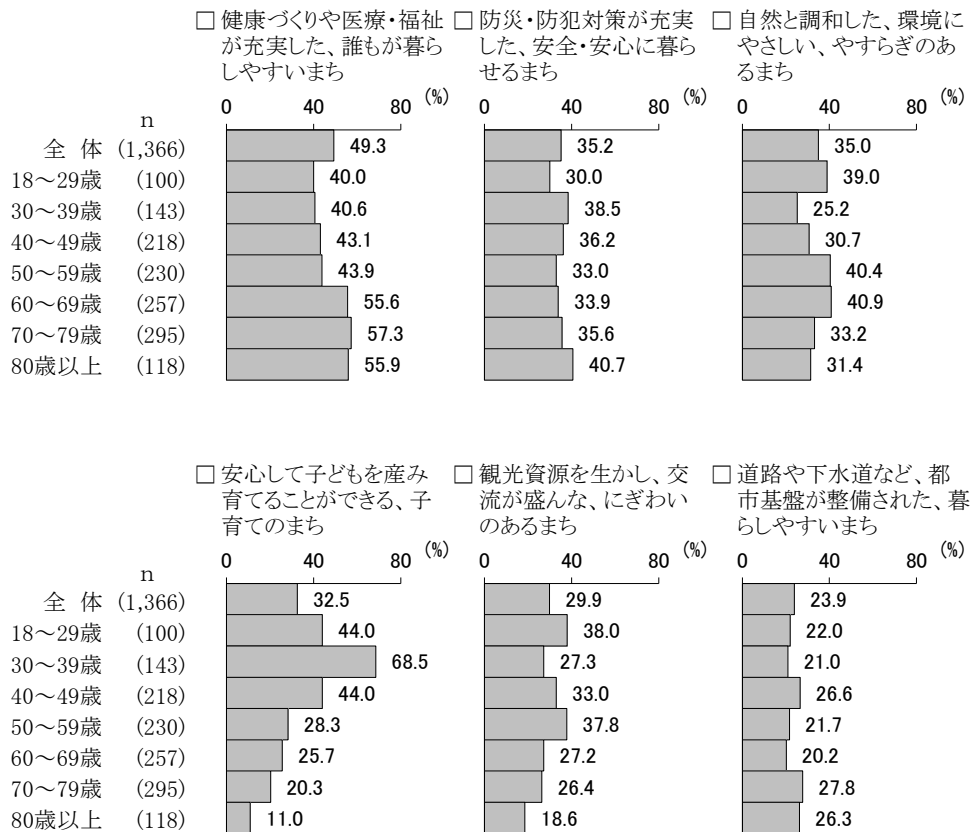
伊勢原市が今後目指すべきまちとしては、「健康づくりや医療・福祉が充実した、誰もが暮らしやすいまち」が49.3%で特に多く、以下、「防災・防犯対策が充実した、安全・安心に暮らせるまち」(35.2%)、「自然と調和した、環境にやさしい、やすらぎのあるまち」(35.0%)、「安心して子どもを産み育てることができる、子育てのまち」(32.5%)が3割台と比較的多くなっている。



第4章 調査結果〔その他〕

年齢別にみると、「健康づくりや医療・福祉が充実した、誰もが暮らしやすいまち」と「防災・防犯対策が充実した、安全・安心に暮らせるまち」は全ての年齢から支持されている。「安心して子どもを産み育てることができる、子育てのまち」は30～39歳で68.5%と特に多く、18～29歳、40～49歳でも4割台となり、この年齢では最も支持されている。

年齢別 市が今後目指すべきまち（上位6項目）



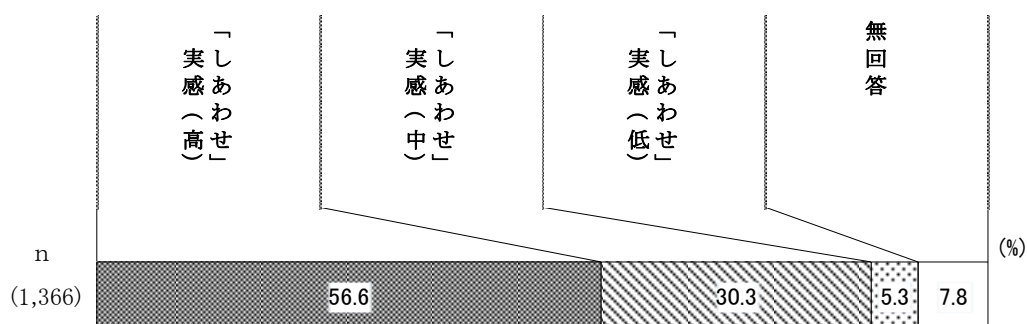
2. 「しあわせ」実感について

(1) 「しあわせ」実感

現在、あなたは実感としてどの程度「しあわせ」ですか。最高を10点、最低を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ選び、○で囲んでください。

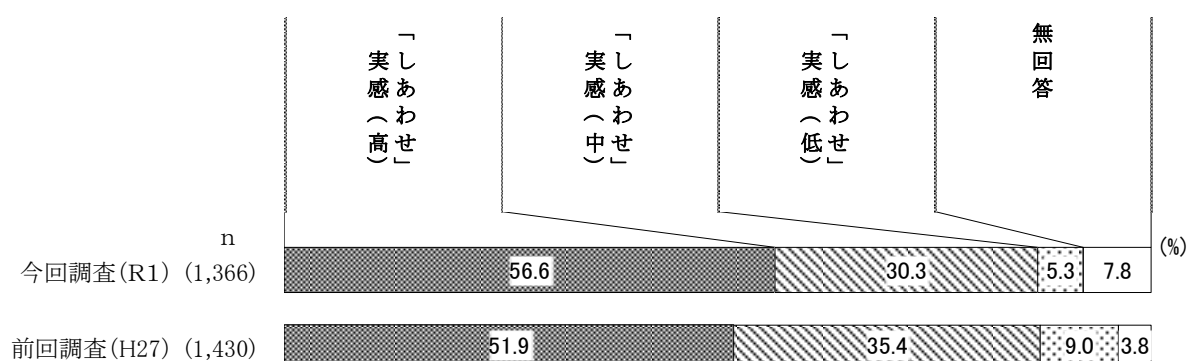
現在の「しあわせ」実感の平均点は6.88であった。

評価いただいた点数のうち、10～7点を「しあわせ実感（高）」、6～4点を「しあわせ実感（中）」、3～0点を「しあわせ実感（低）」の3段階の区分で算出すると、「しあわせ実感（高）」は56.6%、「しあわせ実感（中）」は30.3%、「しあわせ実感（低）」は5.3%となっている。



平成27年度実施の前回調査と比較すると、「しあわせ実感（高）」は4.7ポイント増加、「しあわせ実感（低）」は3.7ポイント減少となっており、「しあわせ」実感の平均点は前回調査の6.38から0.5上昇している。

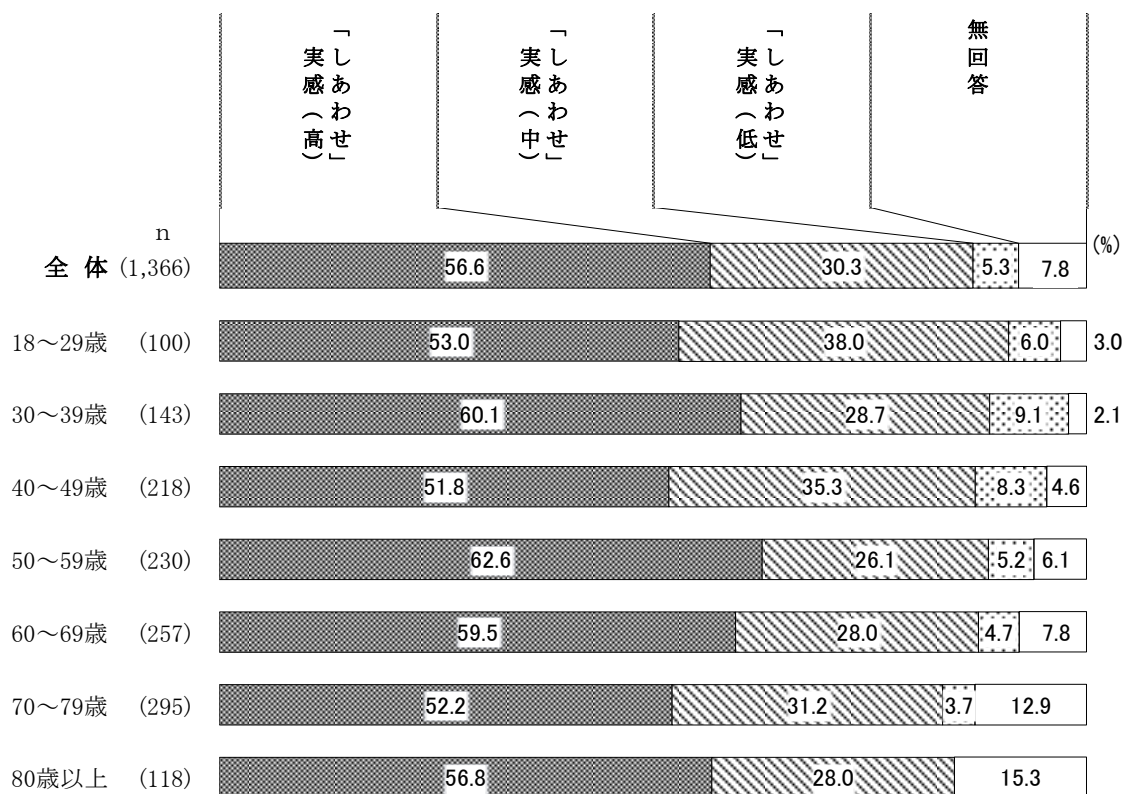
前回調査との比較 「しあわせ」実感



第4章 調査結果〔その他〕

年齢別にみると、全ての年齢層で「しあわせ実感（高）」は5割以上となっており、30～39歳、50～59歳、60～69歳で6割前後となっている。一方、「しあわせ実感（低）」は全ての年齢層で1割未満となっている。

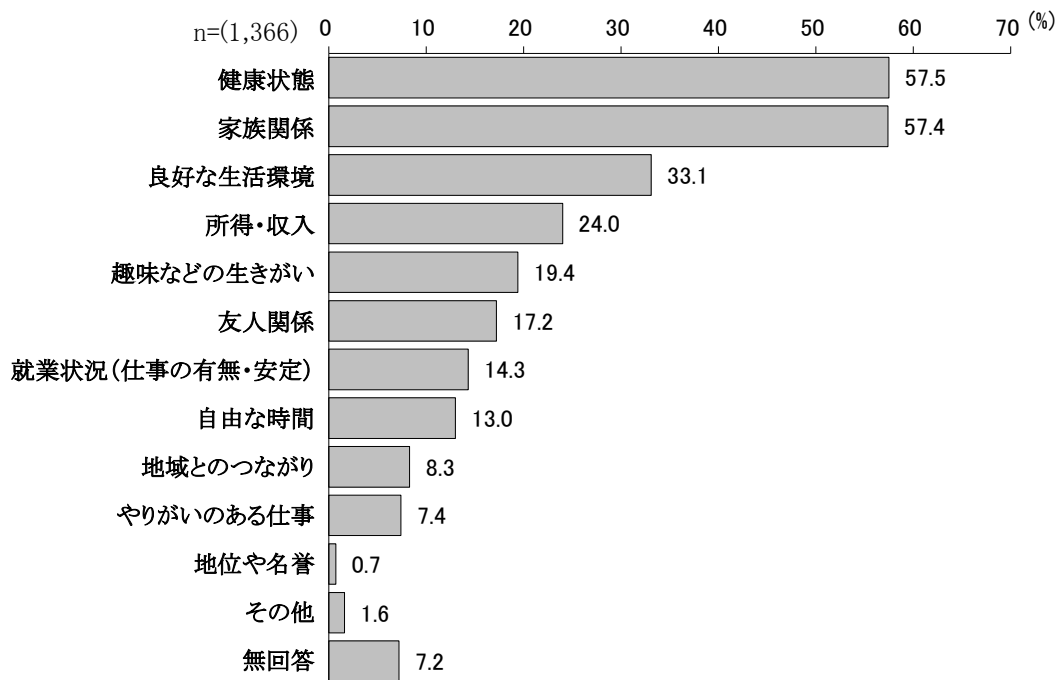
年齢別 「しあわせ」 実感



(2) 「しあわせ」実感を判断する上で重視した事項

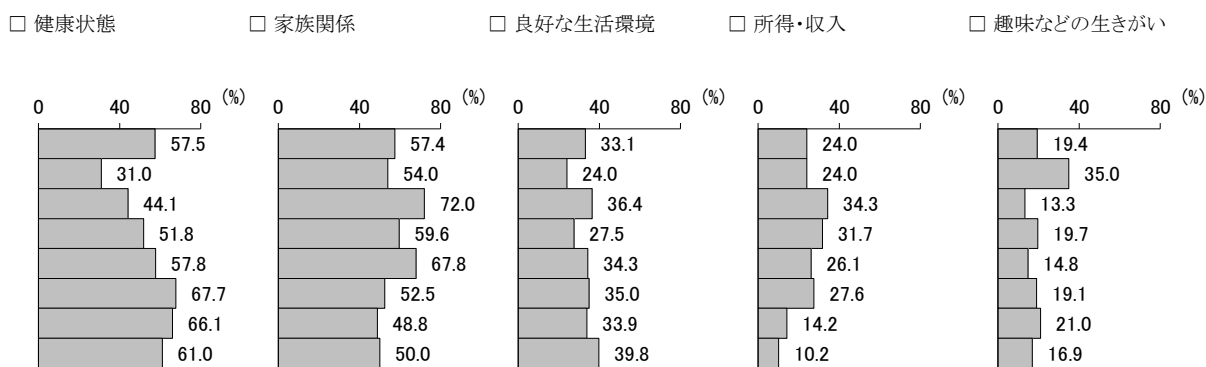
「しあわせ」実感を判断する上で、あなたが重視したことは何ですか。(〇は3つまで)

「しあわせ」実感を判断する上で重視した事項は、「健康状態」(57.5%)と「家族関係」(57.4%)の2項目が5割台で特に多く、以下、「良好な生活環境」が33.1%、「所得・収入」が24.0%、「趣味などの生きがい」が19.4%と続いている。



年齢別にみると、「健康状態」は年齢層が高いほど多く、60～69歳以降で6割台と多くなっている。「家族関係」はほとんどの年齢層で5割以上と多く、30～39歳で72.0%となっている。「良好な生活環境」は30～39歳と50～59歳以降の年齢層で、「所得・収入」は30～39歳から40～49歳の年齢層で、「趣味などの生きがい」は18～29歳で3割台と比較的多くなっている。

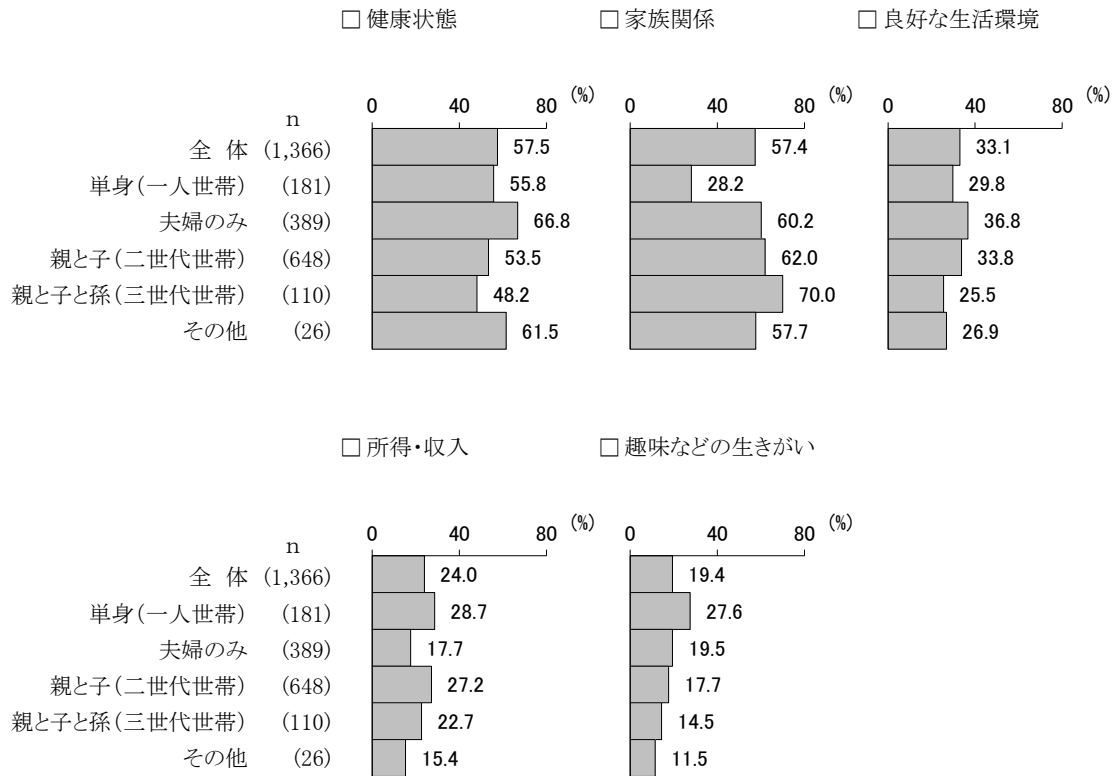
年齢別 「しあわせ」実感を判断する上で重視した事項(上位5項目)



第4章 調査結果〔その他〕

世帯の状況別にみると、「健康状態」はほとんどの世帯状況で5割から6割台となり、特に“夫婦のみ”では66.8%と多い。「家族関係」は“単身（一人世帯）”以外で5割以上となっており、“親と子と孫（三世代世帯）”では70.0%と特に多い。また、「良好な生活環境」は“夫婦のみ”と“親と子（二世帯世帯）”で3割台、「趣味などの生きがい」は“単身（一人世帯）”で27.6%と他の世帯状況よりやや多くなっている。

世帯の状況別 「しあわせ」実感を判断する上で重視した事項（上位5項目）

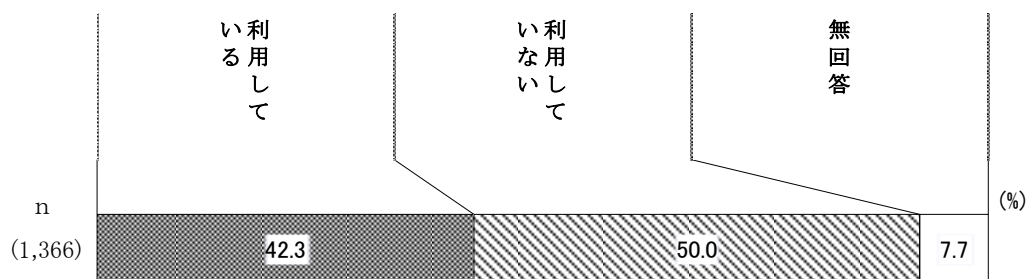


3. 市政情報について

(1) SNSの利用状況

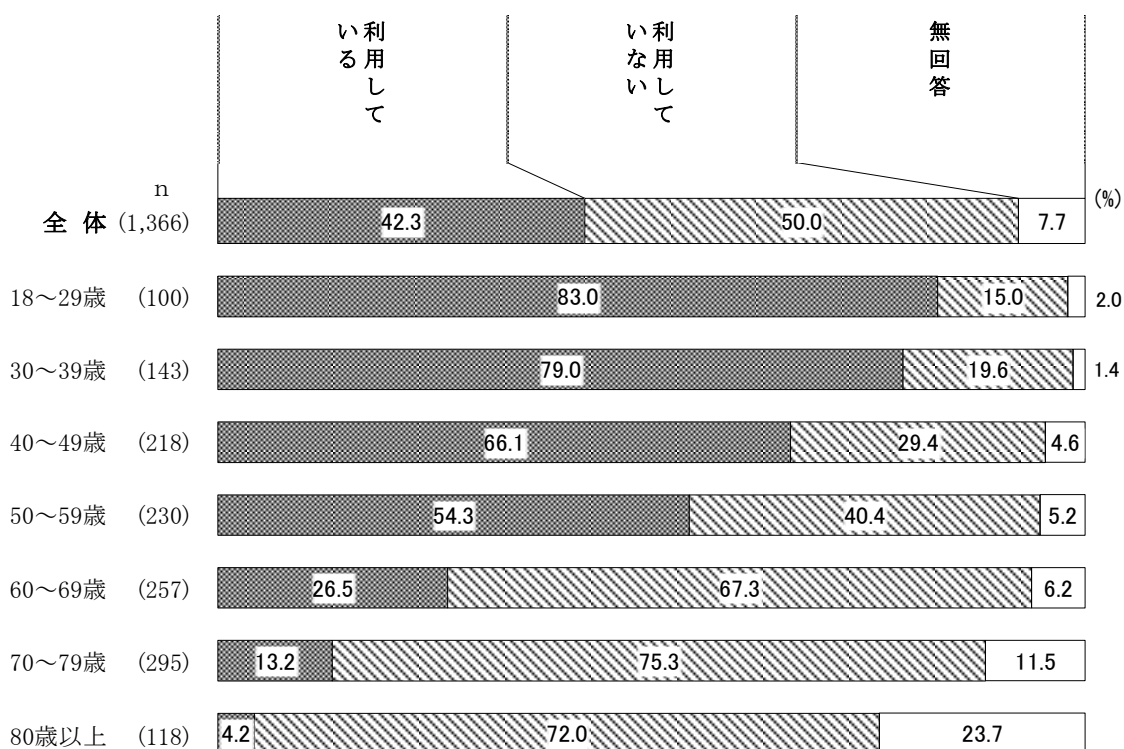
あなたは、日頃SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を利用していますか。
 * SNSとは、インターネット上の交流を通して、社会的なつながりを構築するサービスをいいます。
 代表的なものとして、ツイッターやLINE、フェイスブックなどがあります。

日頃SNSを「利用している」は42.3%、「利用していない」は50.0%となっている。



年齢別にみると、「利用している」は若い年齢層ほど多く、18～29歳で83.0%となっているが、年齢が上がるにつれて少なくなり、60～69歳を境に「利用していない」が6割以上で「利用している」を上回っている。

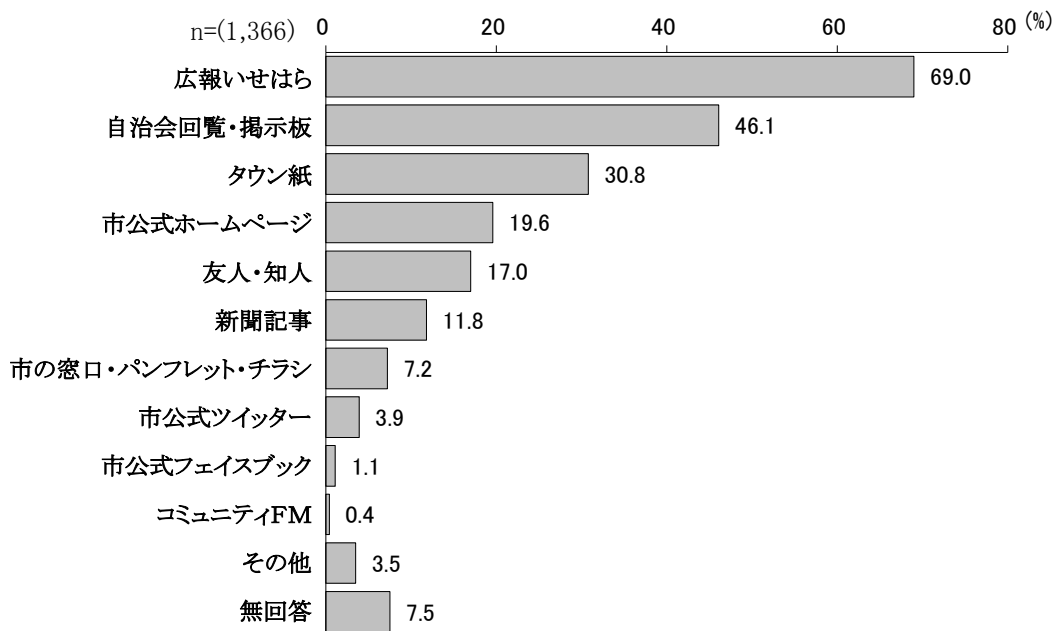
年齢別 SNSの利用状況



(2) 市からの情報の入手源

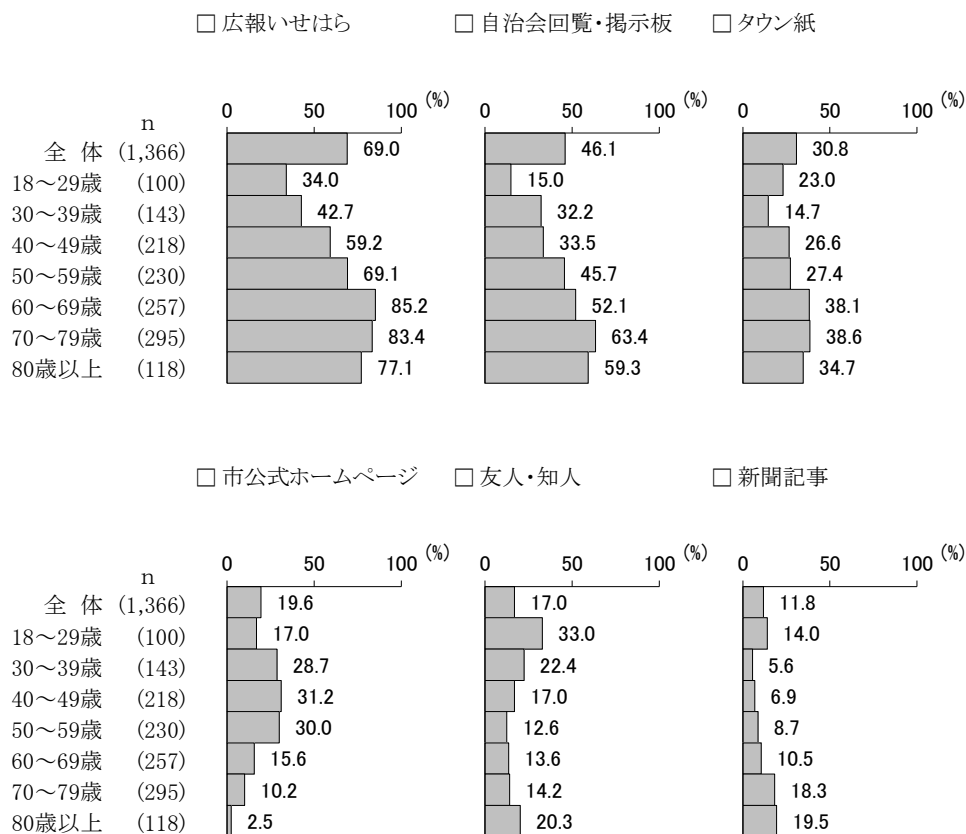
あなたは、市からの情報を、主に何から得ていますか。(〇は3つまで)

市からの情報の入手源は、「広報いせはら」が69.0%で最も多く、以下、「自治会回覧・掲示板」が46.1%、「タウン紙」が30.8%が続いている。また、「市の窓口・パンフレット・チラシ」や「市公式ツイッター」、「市公式フェイスブック」の利用者は1割未満となっている。



年齢別にみると、「広報いせはら」は60～69歳以降の年齢層で7割から8割台と多く、「自治会回覧・掲示板」は60～69歳以降の年齢層では5割から6割台、「タウン紙」は60～69歳と70～79歳で4割近くとなっており、これらの情報入手源は年齢が上がるにつれて多くなる傾向がみられる。「市公式ホームページ」は30～39歳から50～59歳で3割前後であるが、以降、年齢層が上がるにつれて少なくなる。また、「友人・知人」は18～29歳で33.0%、「新聞記事」は70～79歳と80歳以上で2割近くと他の年齢層より多くなっている。

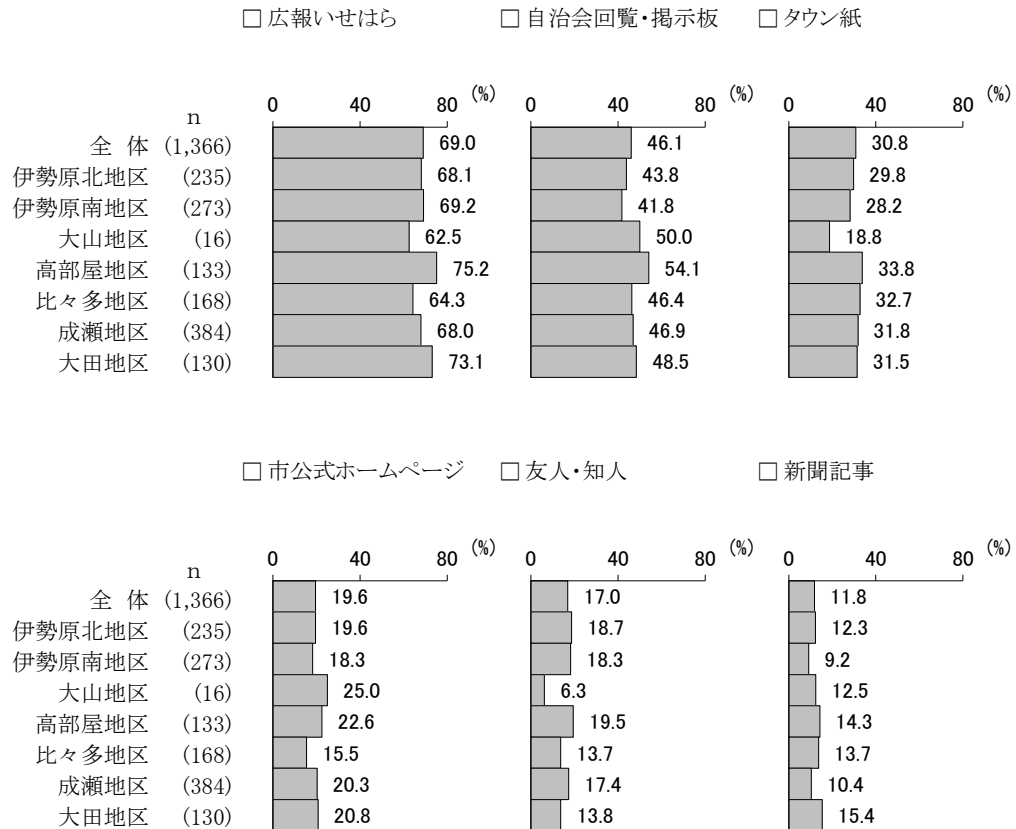
年齢別 市からの情報の入手源（上位6項目）



第4章 調査結果〔その他〕

地区別にみると、「広報いせはら」は高部屋地区と大田地区で7割台、それ以外の地区では6割台となっている。「自治会回覧・掲示板」は大山地区と高部屋地区で5割台、それ以外の地区では4割台となっている。「タウン紙」は大山地区を除く地区で3割前後、「市公式ホームページ」もほとんどの地区で2割前後となっており、地区による各情報の入手格差は比較的少なくなっている。

地区別 市からの情報の入手源（上位6項目）

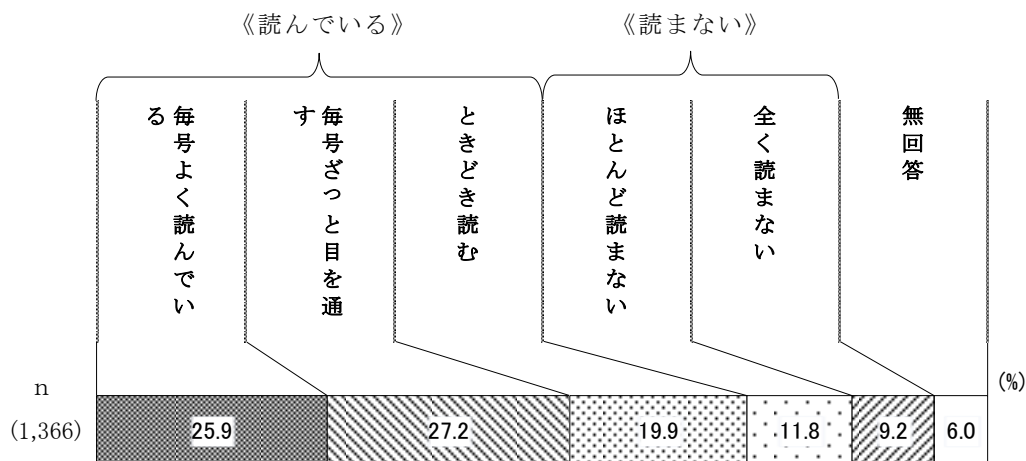


今後とも、情報源として最有力である「広報いせはら」を中心に、地域コミュニティに立脚する「自治会回覧・掲示板」「タウン紙」の活用、また、利用者が増加しており、情報伝達の即時性が期待できるSNS（市公式ツイッター、市公式フェイスブック）など、多様な情報媒体を複合的に活用していくことが必要である。

(3) 「広報いせはら」の閲読状況

あなたは、「広報いせはら」をどの程度読んでいますか。(○は1つ)

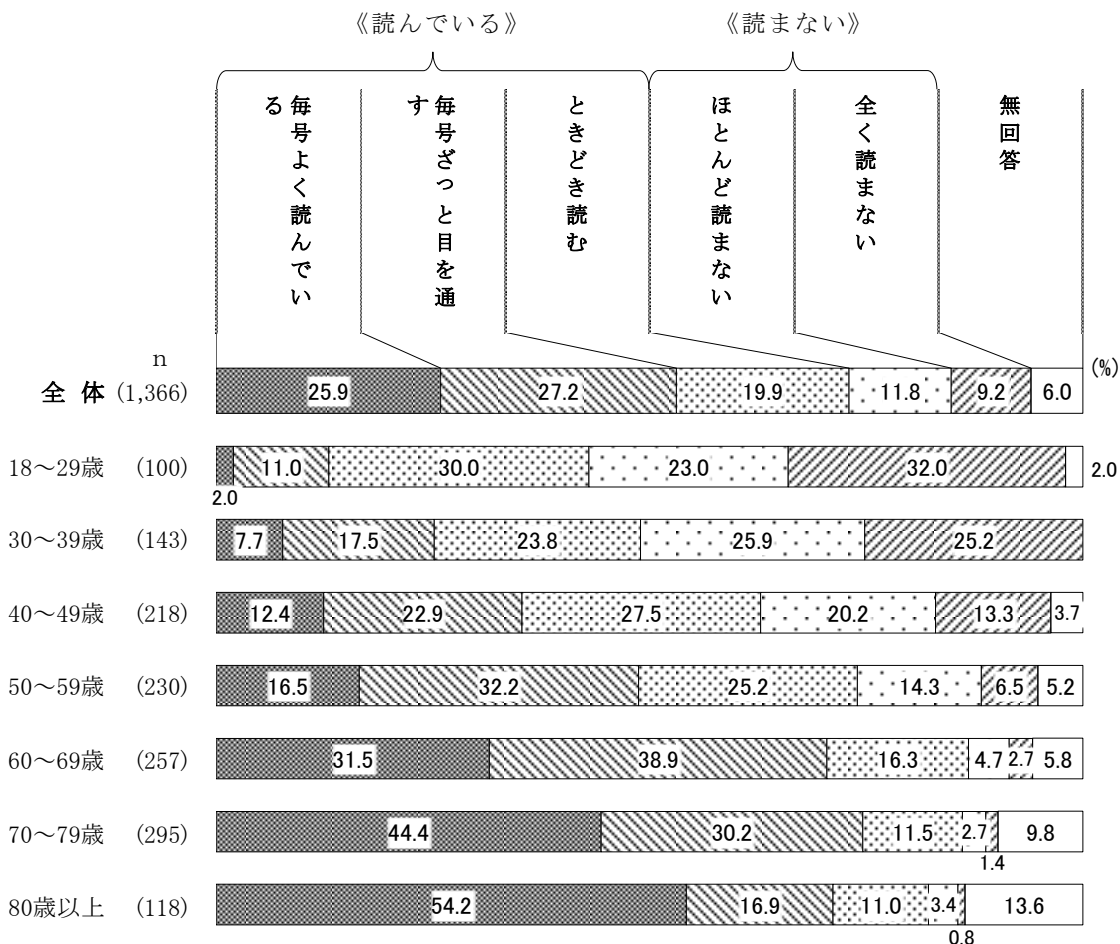
「広報いせはら」の閲読状況としては、「毎号よく読んでいる」が25.9%、「毎号ざっと目を通す」が27.2%、「ときどき読む」が19.9%で、これらをあわせた《読んでいる》は73.0%となっている。一方、「全く読まない」(9.2%)と「ほとんど読まない」(11.8%)をあわせた《読まない》は21.0%となっている。



第4章 調査結果〔その他〕

年齢別にみると、「毎号よく読んでいる」は80歳以上で54.2%、70～79歳で44.4%となっているが、年齢層が下がるにつれて少なくなる。「毎号ざっと目を通す」は50～59歳から70～79歳で3割台となっている。《読んでいる》でみると、50～59歳以降で7割から8割台を占めている。一方、《読まない》は18～29歳、30～39歳で5割台となっている。

年齢別 「広報いせはら」の閲読状況

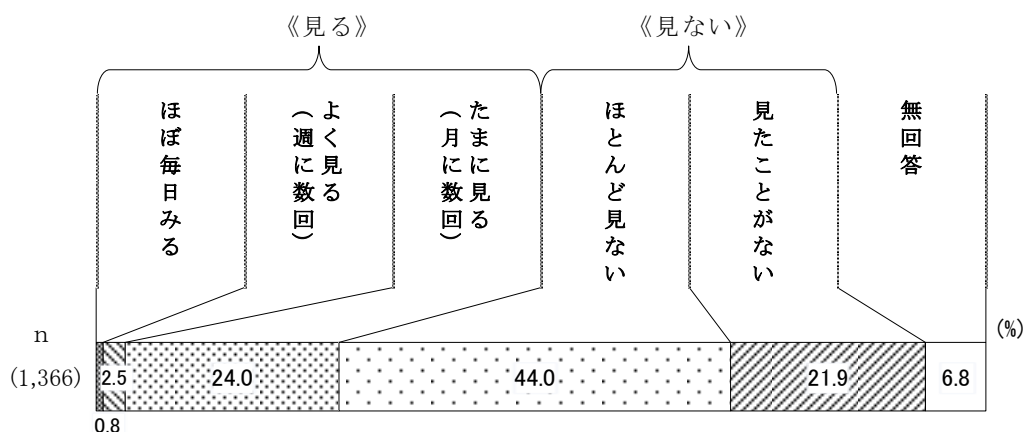


新聞未購読世帯が増加傾向にある中で、新聞折り込みを補完するため、ポスティング配布やスマートフォンアプリによる配信の継続的な実施が求められる。また、18～39歳代の若年・子育て世代にも親しまれる紙面作りに努める必要がある。

(4) 市のホームページの閲覧状況

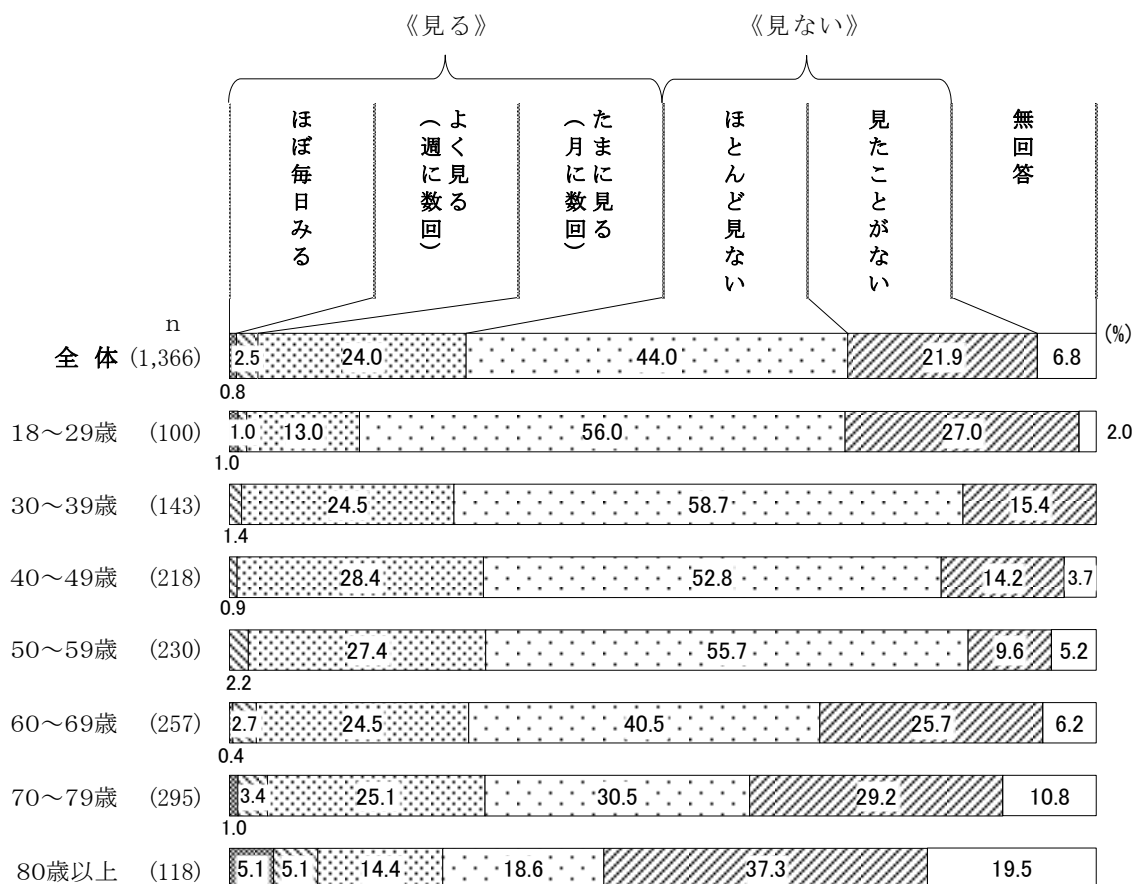
あなたは、市のホームページをどの程度見ますか。(〇は1つ)

市のホームページの閲覧状況は、「ほぼ毎日見る」(0.8%)、「よく見る(週に数回)」(2.5%)はわずかであるが、「たまに見る(月に数回)」が24.0%となっており、これらをあわせた《見る》は27.3%となっている。一方、「見たことがない」(21.9%)と「ほとんど見ない」(44.0%)をあわせた《見ない》は65.9%となっている。



年齢別にみると、《見る》は30～39歳以降の年齢層で2割台となっている。《見ない》は、18～29歳が83.0%と多く、30～39歳から60～69歳の年齢層でも6割から7割台となっている。

年齢別 市のホームページの閲覧状況

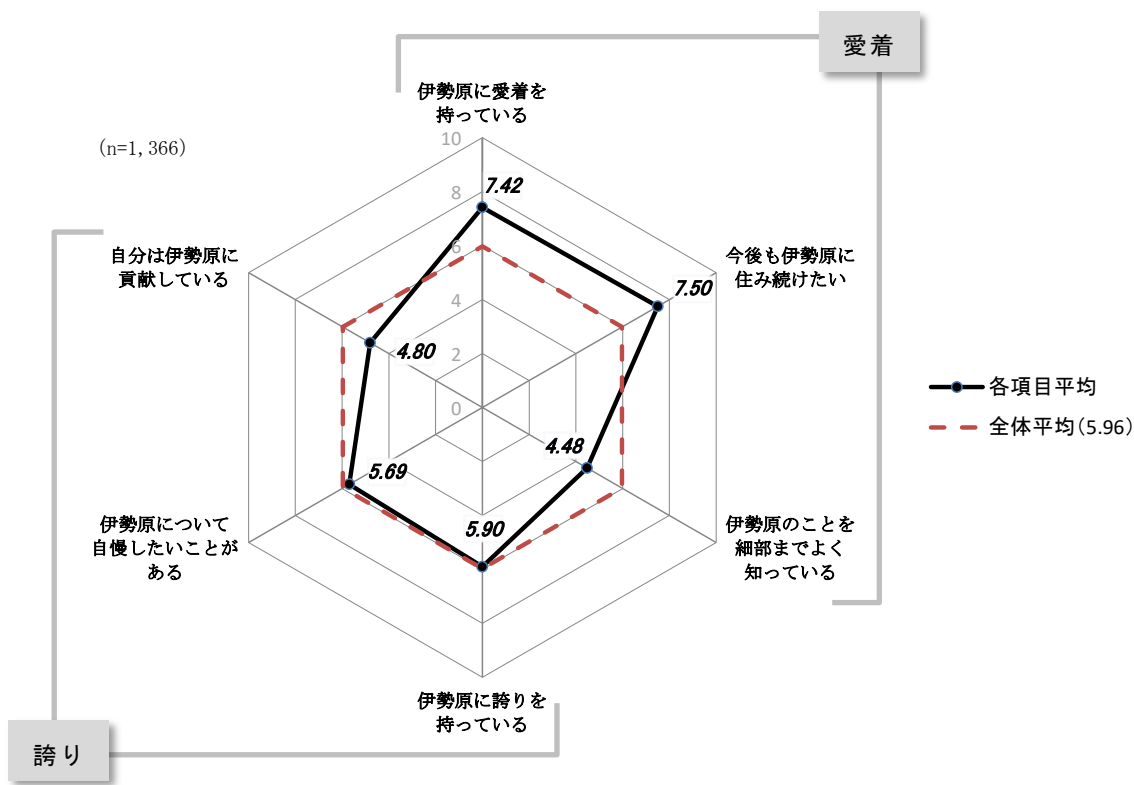


4. 伊勢原に対する愛着や誇り等について

以下の項目それぞれについて、あなたご自身はどのくらい感じていますか。最高を10点、最低を0点として、いずれかの数字を1つだけ選び、○で囲んでください。

(1) 伊勢原に対する愛着や誇り

伊勢原に対する愛着や誇り等に関する6項目の点数の平均点をグラフ化したものが以下の図である。6項目中「今後も伊勢原に住み続けたい」(7.50)や「伊勢原に愛着を持っている」(7.42)の2項目は7点台と高く、平均値以上となっている。一方、「自分は伊勢原に貢献している」(4.80)、「伊勢原のことを細部までよく知っている」(4.48)は4点台にとどまっている。



全体の平均点 : 5.96

項目		各項目平均点	分野別平均点
愛着	伊勢原に愛着を持っている	7.42	6.47
	今後も伊勢原に住み続けたい	7.50	
	伊勢原のことを細部までよく知っている	4.48	
誇り	伊勢原に誇りを持っている	5.90	5.46
	伊勢原について自慢したいことがある	5.69	
	自分は伊勢原に貢献している	4.80	

年齢別にみると、「愛着」「誇り」とも80歳以上が7.31と最も高い評価を示し、「愛着」では18・19歳と60歳以上で、「誇り」では18・19歳と50歳以上で平均点を上回っている。

居住年数別にみると、「愛着」「誇り」とも21年以上の長期居住者が最も高い評価を示しており、平均点を上回っている。

年齢別 伊勢原に対する愛着や誇り

	全 体	18・ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳 以上
「愛着」関連項目の 分野別平均点	6.47	6.69	5.47	5.66	6.12	6.33	6.73	6.94	7.31
「誇り」関連項目の 分野別平均点	5.46	5.49	4.49	4.70	4.99	5.49	5.67	5.90	6.40

居住年数別 伊勢原に対する愛着や誇り

	全 体	1年 未満	1～ 5年	6～ 10年	11～ 20年	21年 以上
「愛着」関連項目の 分野別平均点	6.47	4.64	5.01	5.34	6.01	6.92
「誇り」関連項目の 分野別平均点	5.46	3.62	4.32	4.31	4.98	5.89

今後、「愛着」「誇り」関連項目において低評価であり、他の項目向上にも影響すると思われる「伊勢原のことを細部までよく知っている」「自分は伊勢原に貢献している」を引き上げることに注力すべきであると考えられる。

(2) 市外への推奨度

ネットプロモータースコア（NPS）の手法を用い、市外への「推奨度」を指標化するため、推奨意向を10（非常に薦めたい）～0（全く薦めたくない）の11段階のスケールで測定し、以下の例に基づいて「推奨者」、「中立者」、「批判者」に区分して、「推奨者－批判者」のスコアを算出する。

NPSの手法では、「推奨者」の配点構成が小さいことから、一般的に数値はマイナス寄りに算出される傾向となる。以下に例を示す。

例：設問ごとに“各点数をつけた人数”に着目し、

「推奨する立場」の人（推奨者）の構成比（8～10点をつけた割合）、

「推奨も批判もしない受動的な立場」の人（中立者）の構成比（6～7点をつけた割合）、

「批判的な立場」の人（批判者）の構成比（0～5点をつけた割合）を算出する。

ここでは、20.0%から25.0%を減じた数値マイナス5.0がNPSとなる。

点数	各点数をつけた人数		各立場の構成比
10点	◎人	「推奨する立場」 (推奨者)	20.0%
9点	◎人		
8点	◎人		
7点	△人	「推奨も批判もしない受動的な立場」 (中立者)	55.0%
6点	△人		
5点	×人	「批判的な立場」 (批判者)	25.0%
4点	×人		
3点	×人		
2点	×人		
1点	×人		
0点	×人		

上記の算出例に基づき、「推奨度」について算出したところ、「伊勢原の地場産品を購入したり、観光やレジャーなどで伊勢原を訪れたりすることを、友人・知人に薦めたい」がマイナス14.0、「伊勢原に住むことを友人・知人に薦めたい」がマイナス25.3となっている。

				(推奨者－批判者)
伊勢原の地場産品を購入したり、観光やレジャーなどで伊勢原を訪れたりすることを、友人・知人に薦めたい	推奨 29.7%	中立 26.6%	批判 43.7%	-14.0
伊勢原に住むことを友人・知人に薦めたい	推奨 25.1%	中立 24.6%	批判 50.4%	-25.3

年齢別にみると、「伊勢原の地場産品を購入したり、観光やレジャーなどで伊勢原を訪れたりすることを、友人・知人に薦めたい」（以降「訪問を薦めたい」と略す）、「伊勢原に住むことを友人・知人に薦めたい」（以降「居住を薦めたい」と略す）ともに80歳以上で特に高く、若年層ほど低い傾向にある。

居住年数別にみると、「訪問を薦めたい」「居住を薦めたい」とともに居住年数に比例して上昇している。

年齢別

	全 体	18・ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳 以上
伊勢原の地場産品を購入したり、観光やレジャーなどで伊勢原を訪れたりすることを、友人・知人に薦めたい	-14.0	-53.8	-47.6	-41.2	-26.1	-10.6	-9.5	0.7	20.5
伊勢原に住むことを友人・知人に薦めたい	-25.3	-46.1	-50.0	-46.1	-42.1	-24.4	-20.8	-15.2	16.9

居住年数別

	全 体	1年 未満	1～ 5年	6～ 10年	11～ 20年	21年 以上
伊勢原の地場産品を購入したり、観光やレジャーなどで伊勢原を訪れたりすることを、友人・知人に薦めたい	-14.0	-56.5	-35.2	-33.1	-23.6	-5.7
伊勢原に住むことを友人・知人に薦めたい	-25.3	-60.9	-48.4	-49.5	-34.4	-16.7